

リハビリテーション における 脳画像の活用

～評価・治療プログラム
立案に繋げる脳画像のみかた～

— セラピストが脳画像をみる意義とは —

脳血管障害などの疾患においては、症状が現れる上下肢、体幹の運動学的所見の評価が中心となることが多いのではないのでしょうか。しかし、実際に損傷があるのは脳です。

損傷した脳そのものを評価の対象に取り入れ、脳画像の解釈と運動学的所見をあわせて評価することで、その精度は格段に上がります。

事例から学ぶ！
セラピストのための
脳画像のみかた！



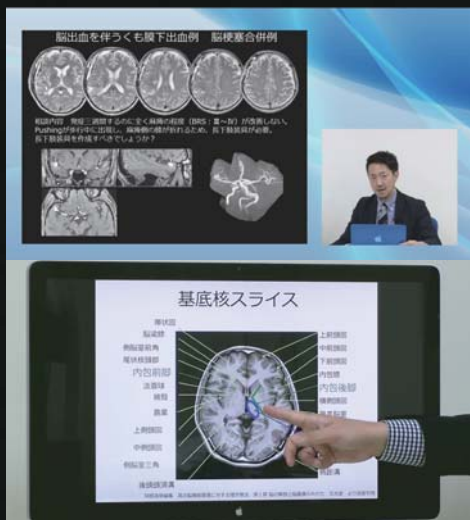
商品番号 **ME208-S** 全2巻・分売不可 14,000円＋税(送料別)

【解説】 **阿部 浩明** (広南病院リハビリテーション科 総括主任 / 理学療法士)

- ◎ 評価の精度を上げ、適切な治療プログラムを選択するために！
- ◎ 脳画像から何がわかるのか、どのように病変が描出されるのか。基礎から分かりやすく解説！

それぞれの脳画像の特徴や脳画像の解釈に関する基礎知識を解説します。また、脳卒中の事例を通して、脳画像情報からの臨床的判断、観察された事象の出現メカニズム、損傷領域から出現が予測される症状など、評価・治療プログラム立案に繋げる脳画像のみかたを学びます。

このDVDが、脳を意識したりリハビリテーションの実践のきっかけとなれば幸いです。



<p>ME208-1 脳画像の基本情報と脳画像の活用事例1 (脳梗塞例) 55min</p>	<p>ME208-2 脳画像の活用事例2 および3 (くも膜下出血例と脳梗塞例) 56min</p>
<p>脳画像をみる意義 脳画像の基礎知識 ◎CTとMRIの特徴 ◎各種MRIの撮像法 ◎脳梗塞・脳出血の画像所見の経過</p> <p>事例① 脳梗塞例 手足が全く動かさないと訴える症例 * 脳画像情報からの臨床的判断 * 損傷領域の同定 * 運動麻痺出現のメカニズム * 損傷領域から出現が予測される症状 など</p>	<p>事例② くも膜下出血例 脳出血を伴うくも膜下出血で発症し、脳血管攣縮による脳梗塞を合併した症例 * 放線冠梗塞例の病巣位置と予後の関連 * 診断名ごとにみた pushing の重症度改善の推移 など</p> <p>事例③ 脳梗塞例 歩行時と検査時との運動機能に乖離のある2症例 * 歩行・姿勢制御に関わる脳内機構の理解 * 中枢神経系の回復メカニズムと介入の原則 * 歩行のシステム * 主たる理学療法プログラム など</p>



商品詳細・ご注文は通販サイトから… www.japanlaim.co.jp/ サンプルムービー配信中

JLC ジャパンライム株式会社

TEL.03(5840)9980 FAX.03(3818)6656
〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-14 本郷竹下ビル4F

ジャパンライム ME208

検索

【お申込み・お支払い方法】◎ご希望の商品番号を指定し、電話かハガキ、FAX、もしくはDVD通販サイトにてお申込みください。受注確認後3～6営業日後でお届けします。
◎送料は1回につき500円＋税。◎到着日指定で「代金引換(手数料無料)」の宅配便でお送りします。◎カード(VISA、MASTER、AMEX、他)もご利用できます(分割可)。